



平成26年7月17日

不妊治療を担う胚培養士の生涯教育を東京で開催 国立大で初

概要：岡山大学生殖補助医療技術教育研究センターは、平成26年8月～12月の期間、東京サテライトオフィス（東京都中央区京橋）で、胚培養士を対象とした公開講座「胚培養士のためのキャリアアップ双方向講座」（全8回）を開催します（プログラムは別紙参照）。国立大学としては日本で初めて現役胚培養士の生涯教育プログラムを提供します。

生殖補助医療^(用語1)で卵子や精子の操作など重要な役割を担う「胚培養士」は、新たな命の誕生に関わる重要な職業ですが、今まで体系的な専門教育システムが構築されていませんでした。このため、知識や技術の進歩に対応する生涯学習の機会が求められていました。

岡山大学生殖補助医療技術教育研究センターは、平成26年8月～12月の期間、東京サテライトオフィス（東京都中央区京橋）で、胚培養士を対象とした公開講座「胚培養士のためのキャリアアップ双方向講座」（全8回）を開催します。

「胚培養士」をめぐる背景

晩婚化などの影響で7組に1組のカップルが不妊と言われています。生殖補助医療^(用語1)では、医師の元で患者の卵子や精子、受精卵（胚）を取り扱う「胚培養士」^(用語2)が重要な役割を果たしています。胚培養士は新たな命の誕生に関わる重要な職業であるにもかかわらず、今まで体系的な専門教育が行われていませんでした。実際には、生命科学を専攻した農学部出身者や臨床検査技師などが勤務しているのが現状で、知識や技術の進歩に対応する生涯学習の機会が求められていました。

胚培養士の83%が生涯学習の必要性を感じると回答

当センターは、胚培養士としての体系的な専門教育を提供するため、平成25年11月に開設されました。開設に伴い、全国の生殖医療施設に勤務する胚培養士に対して生涯学習^(リカレント教育)^(用語3)に対する意識調査を行いました。その結果、胚培養士の83%が生涯学習の必要性を感じると回答し、学習の内容についても具体的な要望が寄せられました（第55回日本卵子学会にて発表^(文献1)）。今回の講座は、調査結果を反映したプログラム構成となっています。



PRESS RELEASE

本講座のポイント

1. 胚培養士に必要な知識のうち、基礎、臨床、管理、社会、学術の 5 分野から重要度の高いテーマを専門家が解説。
2. 少人数制（10 名程度）で、質疑や相談など、講師や受講者間の双方向性も重視。
3. 交通の便の良い大都市圏開催、勤務後出席を考慮し夜間開催（18:30-21:00）。

用語解説

（用語 1）生殖補助医療：不妊治療の中で患者の卵子や精子、受精卵（胚）を体外で操作する行為のこと。培養室において胚培養士が執り行う。ART（Assisted Reproductive Technology）とも呼ばれる。体外受精、顕微授精、凍結保存などの技術が含まれる。

（用語 2）胚培養士：患者の卵子や精子、受精卵（胚）を体外で取り扱う技術者。エンブリオロジストとも呼ばれる。現状では国家資格化されておらず、日本卵子学会と日本臨床エンブリオロジスト学会がそれぞれ独自に資格認定を行っている。

（用語 3）リカレント教育：経済協力開発機構（OECD）が提唱した、生涯学習における制度的形態。社会に出た後も知識や技術の進歩に対応できるよう、教育機関等に回帰することが可能な教育システムのこと。

文献

1. 本橋秀之、高山修、沖津撰、舟橋弘晃、中塚幹也：「現役の胚培養士におけるリカレント教育への意識」J Mammal Ova Res,31(2): S97,2014（第 55 回日本卵子学会講演要旨集）。

※ 本件は平成 26 年度概算要求「生殖補助医療技術キャリア養成教育研究拠点の開設事業」計画に基づいて推進しています。

<お問い合わせ先>

岡山大学生殖補助医療技術教育研究(ART)センター

助教 本橋 秀之

教授、リカレント教育部門長 中塚 幹也

（電話番号）：086-251-8327

（FAX番号）：086-251-8388